

<平成 27 年度>

上下水道局 事業部の取り組み実績

上下水道計画課
上水道整備室浄水課
上水道整備室上水道工務課
上水道保全課
下水道整備室汚水整備課
下水道整備室雨水整備課
下水道施設維持課

I 重点施策・事業

◆中宮浄水場更新事業

持続可能な水道を実現するための重点施策として、新たに建設する浄水場から平成 37 年度に給水を開始することを目標に、中宮浄水場の更新事業を進めます。

平成 27 年度から、更新事業の基礎となる基本構想策定・基本設計業務に取り組み、平成 30 年度中の業務完了をめざします。

加えて、この業務の中で、浄水処理方式や処理能力等を検討するほか、更新後のより効果的・効率的な事業運営の手法についても併せて検討します。

実績

- ・プロポーザル方式により選定した業者と中宮浄水場更新基本構想・基本設計業務委託の契約を締結し、基本構想策定に向け、浄水処理方式の実証実験に着手した。

◆応急給水拠点の整備

大規模災害に備え、市民生活に最低限必要な水を確保し、応急的に給水ができる応急給水拠点の整備を進めます。平成 33 年度までに市内 14 施設の整備を計画しており、平成 27 年度は、11・12 箇所目となる北山配水場、鷹塚山配水場の整備に向けた実施設計を進めます。

実績

- ・北山配水場、鷹塚山配水場の応急給水拠点としての整備に向け、実施設計を行った。また、春日受水場を応急給水拠点として運用を開始した。

◆老朽化した水道施設の更新・改良

老朽化した水道管の更新・改良を、耐震化及び鉛製給水管の解消とともに計画的・効率的に進めます。

また、水道施設全体の更新・改良については、アセットマネジメントを反映させた整備計画の策定に向けて取り組みます。

実績

- ・水道施設整備基本計画における年間の整備目標である約 10km の管路更新を達成した。合わせて、鉛製給水管の取替えを実施し、平成 27 年度末の鉛製給水管率は、19.8%となり、前年度末と比較すると 0.9 ポイント改善が図れた。
- ・アセットマネジメントを反映させた整備計画の策定に向け、プロポーザル方式による委託業務事業者選定審査会を設置し、プロポーザル実施要領や業務仕様書（案）を策定した。

◆公共下水道汚水整備事業

中部及び東部地域を中心に汚水整備事業を展開するとともに未承諾地区や整備困難地区の解消にも取り組み、人口普及率で 95.6%の整備をめざします。

実績

- ・長尾地区、津田地区や招提大谷地区などの整備困難地区を含む 8 地区 15 件の工事により約 7.5km の汚水管を整備し、整備人口普及率で 95.6%を達成した。

◆公共下水道雨水整備事業

浸水対策として、船橋本町雨水支線や養父丘排水路などの整備に取り組むとともに、新安居川ポンプ場及び溝谷川ポンプ場の排水能力の向上をめざし整備を進めます。

実績

- ・船橋本町雨水支線の整備に着手するとともに、養父丘排水路や香里園町地区での雨水管整備などを実施した。
- ・新安居川ポンプ場では、樋管・樋門の築造を進め、溝谷川ポンプ場では沈砂池の除塵設備の整備を実施した。

◆下水道浸水被害軽減総合事業

下水道浸水被害軽減総合計画に基づくハード対策として、蹉跎排水区では、雨水貯留施設の整備等に着手し、楠葉排水区では、基本設計に着手します。また、ソフト対策として引続き土のうステーション設置などの対策を進めます。

実績

- ・蹉跎排水区では、東中振雨水調整池などの雨水貯留施設の整備に着手し、楠葉排水区では、雨水貯留管の基本設計に着手した。また、土のうステーションを新たに2基設置した。

◆下水道長寿命化事業

老朽化する下水道施設を将来にわたって計画的に維持管理・改築・修繕していくため、施設情報管理システムによる基礎データ等をふまえ、下水道施設ストックマネジメント基本構想の策定を進めます。

実績

- ・施設情報管理システムによる基礎データ等を活用し、下水道施設ストックマネジメント基本構想を策定した。

◆下水道施設の適正な維持管理

浸水対策への初動体制の強化として、藤本川ポンプ場・黒田川ポンプ場の2箇所ポンプ場の初期自動化を進めます。

また、危険性・緊急性の高い老朽化した下水道管を更生し、適正な耐震化や機能確保を図り、道路陥没等による機能障害を未然に防止します。

実績

- ・藤本川ポンプ場・黒田川ポンプ場の初期自動化工事を実施した。
- ・長尾北町で約200mの汚水管改良工事及び黄金野地区で約300mの管渠等耐震補強工事を実施した。
- ・管更生事業として、高野道地区で約630m、菊丘地区で約130mの汚水管更生工事を実施した。
- ・下水道施設の点検調査を行ない、不具合か所の応急処置や修繕等を実施した。
- ・市内北部地区の既設暗渠調査として306か所のマンホール目視調査を行い、約400mの浚渫を行った。

II 行政改革・業務改善

<行政改革実施プラン（前期）の改革課題>

改革課題	取り組み内容・目標
33.技能労務職員等の配置基準の見直し	技能労務職員等が従事する業務について、行政の役割と責任やセーフティネットの確保等の視点から整理し、それを踏まえた今後の方向性について、基本的な考え方を示す。
実績	・技能労務職員等が従事する施設維持管理業務内容を精査し、市民ニーズに応じた職員体制や定型的業務の委託などについて検討を重ね、当面の対応や今後の方向性を示した。

<改善・改革サイクルに係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
漏水調査事業	漏水調査について、定点監視型の漏水調査機器の活用などにより、経費の縮減、作業効率の向上を図るが、根本的な業務のあり方についても検討を深める。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・定点監視型の漏水探知機を活用して、広範囲での漏水調査や軌道敷等の漏水監視を重点とした効率的で効果的な調査を実施した。 	

事務事業	取り組み内容・目標
公共下水道計画事務（汚水）	下水道整備を進め、人口普及率の向上を図る。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の改善や河川の水質保全のため、公共下水道の整備完了に向けて、下水道整備を推進した。（整備人口普及率 95.6%） 	

事務事業	取り組み内容・目標
公共下水道計画事務（雨水）	下水道浸水被害軽減総合事業を進め、浸水被害の軽減を図る。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・浸水被害の軽減に向け、下水道浸水被害軽減総合事業の雨水貯留施設整備を実施した。 	

<業務改善運動のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
給水訓練の効率的・効果的な実施	大規模災害等危機事象に備えて重要な各種訓練のうち、個別に実施していた各団体との合同給水訓練について、実施方法の見直しを行い、各団体間の連携強化を図る。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害等危機事象に備えて、上下水道局と各団体による合同給水訓練を行った。 	

テーマ	取り組み内容・目標
水道保全のための調査業務の見直し	小規模貯水槽の調査業務について、業務改善の観点から見直し、啓発活動を徹底する方向で整理を行い、平成 28 年度からの実施に向け、業務内容変更について周知を図る等の手続きを進める。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・点検を希望する施設で実態調査を実施し、適正な管理について助言を行った。また、小規模貯水槽の適正な管理に向け、所有者等に書面による周知を行った。 	

テーマ	取り組み内容・目標
危機管理体制の充実	部内マニュアルによる情報共有と訓練実施の強化。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災無線訓練やポンプ場運転操作の実技研修、大雨対応の訓練等を実施した。 ・定期的な給水訓練と危機事象を想定した図上訓練等を実施した。 	

テーマ	取り組み内容・目標
業務効率の向上	事務進行管理表の作成、共有フォルダの活用で業務の効率化に努める。
実績	
<ul style="list-style-type: none"> ・事務進行管理表を作成し、適正な業務執行と効率化を図った。 	

Ⅲ 予算編成・執行

◆水道事業会計は、節水機器の普及や人口減少、加えて、大口需要者の水道水利用から地下水採取への切り替えにより、給水収益の減少が続きますが、経費節減を徹底し、健全な予算編成を行いました。さらに、予算執行についても、経費削減に取り組み、健全な経営を維持します。

また、資本的収支では、建設改良費が増加しますが、自己財源を活用し、企業債発行額を抑制しながら、計画的に企業債残高の縮減を図ります。

実績

・節水機器の普及などに加え、大口需要者の地下水利用の影響は大きく、引き続き、給水収益は減少した。一方、費用面では、職員給与費は減少したが、資産減耗費の大幅な増加などにより、単年度純利益は前年度より減少し、11億6,940万5千円を計上した。

企業債については、自己財源の活用により、新規発行額を償還額以下に抑制し、引き続き、残高の縮減を図った。

【対前年度決算比】

給水収益減少額：約1億4,308万円
職員給与費削減額：約1億6,544万円
資産減耗費増加額：約2億857万円
単年度純利益減少額：約2億8,057万円

企業債発行額：約11億2,280万円
企業債償還額：約14億4,766万円
企業債残高：約211億2,762万円

【対前年度決算比】

企業債残高削減額：約3億2,486万円

◆下水道事業会計は、供用開始区域の拡大にもかかわらず、水需要は減少し、使用料収入の減少傾向が続きますが、経営の効率化、経費の節減に努め、一般会計からの基準外繰入金を削減した予算編成を行いました。

実績

・一般会計繰入金を縮減する一方、使用料収入は、民間の建設現場における大量の湧水など、臨時的要素により増加した。また、費用面では、職員給与費や企業債利息など、経費の節減に努めたことにより、単年度純利益は前年度より増加し、27億187万3千円を計上した。

【対前年度決算比】

下水道使用料増加額：約6,055万円
一般会計繰入金削減額：約3,263万円
単年度純利益増加額：約2億4,658万円

◆浸水被害の軽減を図るため、下水道事業経営計画に基づき、ポンプ場や雨水支線等の整備事業の推進に加え、下水道浸水被害軽減総合計画による雨水貯留施設等の整備など、国費を活用した予算としました。

実績

・溝谷川ポンプ場や船橋本町雨水支線、蹠陀排水区下水道浸水被害軽減総合計画における雨水貯留施設などの整備に国費を活用した。

◆老朽化に伴う施設の更新や修繕、浚渫など、下水道施設の適切な維持管理を行うための予算を確保しています。

実績

・老朽化した各施設の維持管理には、職員のノウハウを活かした施設更新や修繕を行った。
・清掃や除草等の委託業務以外は、直営で対応するなど、効率的・効果的な予算執行を行った。

IV 組織運営・人材育成

- ◆本市水道事業の将来を担うエキスパート職員を、長期的視点で育成していきます。そのため、本人の意向や適性などを見極めながら、部内のジョブローテーションを活用し、若手職員の資質や能力の向上に努めます。

実績

- ・技術的に特殊な上下水道局の業務を広く担える職員を育成するため、水道・下水道事業それぞれの部署だけでなく、両事業間の人事異動を行い、将来への技術継承を見据えた取り組みを行った。また、年度当初、上下水道局へ異動してきた職員を対象に、上下水道局各課の業務を案内する研修を実施するなど、水道・下水道事業の取り組みについて習得する機会を設け、職員の資質の向上に取り組んだ。

- ◆水道事業が、お客様の信頼の上に成り立っていることを、全職員が再認識し、服務規律の確保を徹底していくため、コンプライアンスの向上に向けた取り組みを継続的に行っていきます。

実績

- ・職員が常に襟を正し、コンプライアンスの推進を図ることが市民の信頼につながることから、上下水道局全職員に対して、コンプライアンスの徹底、個人情報の保護、信用失墜行為の禁止などについて、適宜、通達を行い、服務規律の確保に努めた。

- ◆下水道事業の執務場所が組織統合により平成28年4月から中宮に移転する予定ですが、ワンストップサービスなど、お客さまにとって便利でわかりやすく、職員にとっては業務効率の良い組織体制の構築をめざし、上下水道組織の再編に向けた準備を進めます。

実績

- ・公営企業として、安定経営の持続をめざした戦略的な事業運営の推進と災害時などに備えた危機管理体制の強化を図るため、水道・下水道事業を一体的に捉え、水道部、下水道部を「経営部」及び「事業部」に再編することとした。また、再編と合わせた執務場所の統合により、水道・下水道事業のスムーズな連携による業務の効率化につなげるとともに、給水・排水設備関係の窓口業務をワンフロアで行えるよう「給排水管理課」を設置することとし、お客さまの利便性の向上につながる体制整備に取り組んだ。

- ◆汚水管や雨水ポンプ施設の下水道施設長寿命化計画や、浸水対策等の検討を進める上で、部内の横断的なチームによる効率的な組織運営を図ります。

実績

- ・ストックマネジメント基本構想策定にあたり、下水道事業の経験ある職員により、リスク評価の基準策定を行った。

- ◆建設事業の設計や施工管理など、技術的・専門的な業務が多いため、必要な専門研修に積極的に参加し、部内で研修成果を共有化することで、職員のスキルアップを図ります。

実績

- ・専門的な知識を高めるため、部内における定期的な研修や各団体が主催する研修会に積極的に参加し、職員のスキルアップを図った。

V 広報・情報発信

◆安全でおいしく、安価な水道水のPR

高度浄水処理を施した安全でおいしく、しかも安価な水道水について、広くPRを図るため、市の情報提供番組で、高度浄水処理など水処理に関する特集を制作し、放送するほか、出前講座やイベントなど、様々な機会を通じて水道水に関する情報を発信します。

実績

- ケーブルテレビの市の情報提供番組で「安全でおいしい水道の水ができるまで」をテーマに家庭の蛇口に水道水が届くまでをわかりやすく紹介した番組を制作し、放送するとともに、市ホームページで動画配信した。また、出前講座の実施やイベント参加により上下水道局の取り組みについて情報発信する中で、安全でおいしい水道水の安定的な供給についてPRした。

市政情報番組の撮影風景



◆浸水対策の情報発信

下水道浸水被害軽減総合事業や土のうステーションの設置など、新たな浸水対策の取り組みについて、市ホームページ等で市民にお知らせします。

実績

- 下水道浸水被害軽減総合事業などの新たな浸水対策の取り組みを、工事内容と併せて、市ホームページ等で市民に情報発信を行った。

◆下水道のPR

広報ひらかたや出前講座、FM ひらかたなどの地域メディアを活用し、下水道に関する情報を市民に提供します。



(出前講座の状況)

実績

- 広報ひらかたや市ホームページなどで浸水対策事業の概要について情報発信を行った。また、下水道に関する啓発活動を出前講座にて行った。

◆新組織体制に関する情報発信

平成 28 年 4 月からの新たな組織体制、上下水道の執務場所の統合にあたって、問い合わせ先や行き先等でトラブルが発生しないよう、様々な広報媒体を活用し、わかりやすく情報発信していきます。

実績

- 平成 28 年 4 月からの組織体制、執務場所の変更について、広報、ホームページで周知を図るための準備を行った。また、問い合わせ先や行き先等でトラブルが発生しないよう、より確実に情報発信するため、全戸配布用の冊子「水道・下水道ガイド」を作成した。なお、冊子の内容は、新たな組織体制、窓口業務の案内だけでなく、水まわりの役立つ情報などを掲載し、保存版として活用できるものとした。



全戸配布冊子「水道・下水道ガイド」